

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

B y a k k o t a i N o K a i

会誌創刊号

Vol. 1 2011年4月

白虎隊の「義」後世に



會

発行者 白虎隊の会

ホームページ : <http://byakko1868.web.fc2.com/>

卷頭言 白虎隊の会への思い

白虎隊の会事務局長 飯沼一元

3.11東日本大震災！

言葉を失う。

黙祷！ そして合掌。

益々事態が深刻化する福島原発事故。

なぜ福島なのか？

山口県の上関（かみのせき）原発は福島の教

訓を得て中止になるのだろうか？

困難に直面したとき、私は必ず祖父飯沼貞

雄ならどう対処するかを考える。
143年前、会津は朝敵の汚名を着せられ、
戦いに破れ、全てを失い、17000人が嚴
寒不毛の地に集団流罪となつた。

その時、会津藩が執った行動の一つは「若
手人材の育成」だった。子供たちに将来を託
したのである。飯沼貞吉も山川健次郎も、そ
の託された使命を「ならぬことはならぬ」と
いう会津の教えを守りながら粉骨邁進したの
だろう。



飯沼一元

手元に、会津青年会機関紙発行に際して貞
雄が用意した祝辞の下書きがある。これは、
明治44年（1911年）、即ち今から丁度1
00年前のことである。この前年に日本は韓
国を併合し、三年後に第一次世界大戦でドイ
ツに宣戦布告した。

そこには、次のように書かれている。
「東洋の平和を保全する上において、幾多の
人傑を要す。諸君は協同一致、奮勉努力、益々
本会の基礎を強固にし、勇往邁進、常に社会
の機運を制し、以つて会津男子の本分を發揮
すべし」

これだけでは、真意が何かを断定することは
できないが、「社会の機運を制し」という
ところは、「それいけどん」との風潮に乗
らず、「ならぬことはならぬ」を貫くべしと
言つてゐるようと思える。

本会は、白虎隊の「義」を現代および後世
に伝えていくことを目的としている。白虎隊
は、皇國への犠牲の鑑ではない。会津の特産
でもない。

人として正しい道を、誇りを以つて歩んだ
人たちである。この大惨事に我々がどう対処
するかを注意深く見守つてゐるに違いない。
彼らに恥じることの無い活動を展開していき
たいと考えてゐる。会員各位のご協力を切に
お願いする。



仙台会津青年会写真。
中央は飯沼貞雄（副会長）、その左は新妻駒五郎（会長）
明治44年、仙台にて。

寄稿 — 白虎隊の会機関紙創刊によせて

副会長 木下 健 東京大学生産技術研究所教授

白虎隊についての正しい理解が世間に必ずしも広まつてない現状を悲しんで、昨年に白虎隊の会が飯沼一元様の御努力で立ち上がりました。日本中の各地に支部ができ活動を開始したこととは誠に喜ばしく思います。

私は母方の祖母が、白虎隊の生き残りで、一歳違いで士中二番隊からの出征が適わかつた山川健次郎の一女という関係で、白虎隊には強い関心を持つっています。

健次郎は藩校日新館の仲間達が命を捧げて戦い敗れた戊辰戦争のことを正確に後世に伝えることと、戊辰戦争で殘念ながら敗れてしまった原因を、歴史教育と科学技術教育の欠如と捉え、戊辰戦争の正確な史実の記録および白虎隊顕彰と、科学的歴史教育と科学技術とともに実学の振興に終生を尽くしました。



副会長 木下 健

この原稿は三月二十日に書いています。十日の未曾有の大震災、大津波後の大混乱をテレビでは報じています。会津若松市も被災者の受入等で大変な様子です。震源地から200km以上離れた東京でも、今もコンビニから食物が消え、ガソリンスタンドは一時間で売り切れます。一方、暖かい思いやりや自己抑制の行き届いた行動を外国のメディアが励ましとともに賞賛してくれています。

この大惨事がこれから日本の再スタートの礎になることを祈るばかりです。その時に今回多くの人々が示している暖かい思いやりと自己抑制の行き届いた行動こそが中核になると信じています。それは実は白虎隊が示したもの、そのものだと思います。

今回の災害被害を特に大きくしているものは巨大津波です。実は私の専門は海洋工学です。被災された幾つかの地点はチリ津波でも大被害のあつた地域で、大規模な防潮堤や万里の頂上を思わせるような大規模な津波堤防、あるいは巨大な潜堤が作られていました。

それらは被害を軽減するのに、如何ほどかは効果があつたのか今後調べてみたいと思つています。被害地の再興計画にとつて大切だと思います。



山川健次郎 (1854~1931)



健次郎像(九州工業大学構内)

自分に出来ることは限られていますが、出来ることを見つけ出し社会に貢献する、これも白虎隊の教えと思っています。

ただでさえ高齢化社会を迎え高負担が避けられないわが国の、多数の原子力発電所の停止による何年にもわたるとみられる電力不足の中での今回の大災害からの復興にとつて、今後の白虎隊の会の活動を通じた白虎隊精神の正しい理解が、希望の道しるべ、励ましになることを願つてやみません。

白虎隊の会の発足前の裏話 中村 正

白虎隊の会、設立1周年おめでとうござい
ます。

発起人の一人であり、会員番号「0002」
の「桂小五郎」です。

生まれは、長州（山口県下関市）、毛利長府
藩校（敬業館）が前身の豊浦高校OBです。

しかも生まれ育ったのは、高杉晋作が決起
した奇兵隊屯所の隣の町で、東行庵のすぐそ
ば、さらに長府功山寺や、萩の松下村塾も小
学校の遠足コースでした。

このような根っからの長州人の私が、

飯沼さんとすでに何度も一緒に講演をし
ていますが、必ず聞かれるのが、

「何故、長州が会津と?」、「何故、長州人
が白虎隊の会に、しかも発起人とは?」と
の質問です。その回答として、

「私と、飯沼さんとの出会い」さらに「不
思議な縁で結ばれた、「高見フサのご子孫と
の出会い」を紹介します。

5年前、飯沼さんと同じ東北大学OBの方
に紹介していただき、東京のオフィスに初め
て伺いました。その時、「長州出身です。
京都で史跡ガイドボランティアをやってい
ます。飯沼貞吉が長州藩士・樋崎頼三に薰陶
を受けた事について講演していただけません
か?」



KBSテレビ（番組・Live5）で放送さ
れた。（現在も講演の度に、DVDで紹介して
いる）

その年の秋、飯沼さんが初めての長州入り。
(山口県に生まれて初めて足を踏み込まれた)

9月13日付け、「山口新聞一面トップ」、タ

イトルは、「白虎隊 唯一の生存少年」、「長州
藩士が美祢で養育」、「孫が20日山口県入り、
ゆかりの地で講演も」の記事を見た、高見家
子孫の方から私宛に運命の1本の電話があり、
地元 美祢・小杉の樋崎頼三屋敷跡で高見フ
サご子孫との歴史的、140年ぶりの子孫同
志の対面となつた。その場面が写真入りで山
口新聞にも大きく掲載された。そのご子孫の
一人は、私と同じ豊浦高校の先輩であり、私
の生まれ故郷の町のすぐそばに在住されてい
ると言う。なんと言つ、「縁」か!と驚愕した。

その方が現在、下関支部長の吉井克也、壹
岐初枝さん兄妹です。これが、私が発起人に
なつた理由です。

2009年12月暮れに飯沼、中村、羽角、
正井の4人が京都の司太夫のお店「こつたい」
に集まり、【白虎隊の会】の立ち上げを決定し
ました。（詳細は、白虎隊の会掲示板や、ま
んねんサイトのブログコーナーをご参照下さ
い）

白虎隊の会の発足

飯沼一元

「白虎隊」の知名度は高く、ファンは全国にいる。しかし、求心力を働かせるためには、核になる機構が必要である。どこかにあっても良さそうなものだが、調べてみると無いことが分かつた。これを実現するのは、唯一生き残った白虎隊士の血をひく自分の使命と考え、懇意の友人と京都で白虎隊の会立上げの決意を固めた。その後、福島民報の小池記者から電話取材があり、同紙に白虎隊の会発足として掲載された。この記事はかなりの反響があり、会津若松、福島、郡山などから、入会方法などの問い合わせがかなりあった。

発足は四月一日と決めていたので、その段取りとして、三月二十一日に東京板橋区の堀

田文庫（堀田節夫氏の蔵書館）にて、設立発起人会を開催することにした。堀田氏は会津人ではないが、西郷頼母研究会を主宰し、その遺稿の解説に一途に取り組んでこられた。頼母の研究にはなよたけの碑で知られる妻千重子（貞吉の叔母）、即ち飯沼家および頼母の分家西郷十郎右衛門近登之とその一族、即ち山川浩・健次郎の調査もからんでくる。そこで、これらの方々のご子孫に加えて、会津から石田明夫氏・京都から戸田氏・仙台から飯沼一宇氏を加えて、会長・副会長・事務局長の役員体制を決定した。そして、間もなく京都支部発足の記事が掲載された。京都の動きはいつも素早いのに驚かされる。

子孫ら会設立京でも支部
白虎隊の「義」伝えたい

生き方問い直す

福島民報 2010年(平成22年)3月24日(水曜日)



定説の裏側に光を／若い人に伝えたい／記憶、記録を整理

発思起語人る

来月設立「白虎隊の会」

を期待している」
（西郷頼母）

研究会作業

●EB担当役員、京都府||「白虎隊は会津はもちろん全国で有名。各地にいる白虎隊研究者(ファン)が集つ会にしたい」
ジ「白虎彷徨」管理人)
▼石田明夫さん(五七)॥研究担当役員、会津若松市||「戊辰戦争や、その後の会津の歴史の真実が知りたい。先人をたたえ、それを若い人に伝え、郷土に誇りを持ってもらいたい」(郷土史家、会津古城研究会長)
▼飯沼一宇さん(六八)॥特別会員、宮城県||「次第に薄れゆく白虎隊の記憶、記録を整理して保存し役に立ちたい」(白虎隊士飯沼貞吉の孫)
▼飯沼二元さん(七七)॥事務局長、東京都||「白虎隊の『義』を表していく。若い人们に分かりやすく伝え、活動を広げたい」(飯沼貞吉の孫、一宇さんの弟)
▼飯沼一之さん(八五)॥特別会員、神奈川県||「白虎隊の全体像が分かり、その後の足跡も解明できれば、斗南藩の苦労ももっと分かるようになるはず」(飯沼貞吉の第二寿田の名孫)

春の白虎隊墓前祭参加

飯沼一元

四月二十四日は恒例の春の飯盛山墓前祭の日である。私はこの時期に毎年会津を訪れ、喜多方の飯沼貞吉記念碑と飯盛山にある飯沼貞雄の墓の掃除をしています。しかし、これまで墓前祭に参加したことはありませんでした。生き残り白虎隊士の孫というだけでは、墓前に奉げるものはありません。自刃した人たちへ何を奉げたらよいのかが自分で納得できるように整理できなかつたからです。

この日、初めて飯盛山白虎隊墓前祭に参加しました。境内には総勢200名近くの人が

集まり、式は盛大に執り行われました。私は自刃白虎隊士の子孫として、玉串奉奠の機会が与えられました。墓前で白虎隊の会設立の報告をするとともに、隊士らが現代に残した「義」を後世に伝えることを誓いました。恒例の会津高校生徒による白虎隊剣舞が奉納され、16～17歳の青年達が真剣な眼差しで、日頃の練習の成果を披露するのを見て、とても感激しました。

墓前祭の後に行われた直会（なおらい）の席で、挨拶を求められ、白虎隊士が自刃した理由は、「お城が燃えていると錯覚して、殿の後を追つた」のではなく、「武士の本分を明らかにするため」だつたことを飯沼貞雄が残した文書を引用して述べさせていただきました。

そして、【白虎隊の会】として、飯盛山自刃の跡地に、説明版を設置したい旨の提案をしました。その日の午後は会津史談会の総会および懇親会に出席し、同様の挨拶をしました。会場からは、「今頃になつて何をのこのこ出てきたのか？」といった冷ややかな空気も感じましたが、百四十年に亘つて、飯沼家がだ

かりに話してはならぬ」と教えられ、沈黙を守っていた。十年前

典は二十四日、会津若松市の飯盛山にある墓前で行われた。飯盛山で自刃した隊士の中で生き残った飯沼貞吉の孫飯沼一元さん

に生きた隊士の姿を伝えていくのが役目と考え、祭典に出席することにした。墓前に玉ぐしをさき始め貞吉の記録を調べる。吉が残した資料を基に、白虎隊が自決に至る経緯を雑誌に発表。落城を誤認して自殺したのでなく、議論の末に潔く自刃して武士の本分を明らかにする道を選んだとした。



会津エンジン05参加

飯沼一元

七月三日～四日にかけて、会津若松を訪問しました。目的は、会津エンジン05での講演と会津支部の会合でした。

会津エンジンは、会津若松商工会議所青年部が中心になって、二〇〇六年から毎年開催している一大イベントです。先人たちの生き方、自分自身のあり方、未来への希望、新しい発見などをテーマに、内外から講師を招き、約二千人の参加者を集めています。このようなイベントを会津の若手が中心になって企画・推進していることに心から敬意を表します。

会津支部長の眞部正美さんから、講演の招待を受けて初めて参加しました。会場は広々として設備も整っている会津大学。午前中は劇団びーひやらの「明治の兄弟・山川家の人々」を観劇し、思わず涙しました。ストーリーは山川捨松の大山巣との結婚を中心に行開しますが、白虎隊や斗南、西南戦争も紹介され、歴史の重みがあり、戊辰戦争とその後の明治維新の状況がとても良く表現され、感動的でした。

この日の午後は「白虎隊の残したもの：義」と題して、飯沼が講演。約五十名の参加者がありました。

夜は、夜楽が組まれ、下関から参加した八人の方を含めて、「白虎隊」をテーマに和気藹々の会食がもたれました。

第二次会は会津支部長の眞部正美氏のお店で、長州八人組と過ごしました。なお、会津支部は七月一日に正式にスタートし、約三十名の新規会員が入会しました。事務局は会津とらぞう取締役の井関一浩氏です。

七月三日の午後は、元戊辰戦争研究会の有



志ンバーと一緒に県立博物館で「白虎隊の図像学」を見学しました。自刃の図は多数あるが、嚆矢となつた穗積朝春の作品と忠臣義士の題字を有する石版画が特に歴史的に重要なことを説明しました。

その後は、石田明夫さんの案内での鶴が城見学を楽しみました。史跡研究の第一人者だけあって、「鶴ヶ城の全て」という手製資料に基づく説明に圧倒されました

京都講演（二〇一〇年八月）

中村 正

八月二十二日に京都の「ひと・まち交流館」で、「京都史跡ガイドボランティア協会」（中村が所属する団体）が主催する歴史講演会が開催され、飯沼さんに京都で2度目の講演をお願いしました。

前回（二〇〇七年一月十八日）は、私と飯沼さんと奥様だけでしたが、あれから四年、白虎隊の会も設立でき、京都支部も出来たので支部のメンバーとの交流会「二〇一〇夏の納涼会 二日間」として企画しました。

白虎隊の会メンバーに、メールや掲示板で案内したところ、京都支部だけでなく会津、大阪、さらには遠く長崎からも参加者がありました。



たい）の店で、飲み直しとなり会津と長州の話で大盛り上りました。

この店は、司太夫が会津ファンの為、長州お断りの店？ですが、何故か桂小五郎はOKのようです。

時々、近藤勇や坂本龍馬も現れ、桂小五郎がいるとお店で戊辰戦争が始まると太夫が笑っています。

二日目（二十二日）は朝から市内観光…繁昌神社（日本で唯一）、菅大臣神社（菅原道真



の生誕の地）見学。さらに目玉の京町屋見学（無名舎…説明は主人自らで、祇園祭連合会の事理長の吉田さん）祇園祭りの鉾町をぶらり散策しながら、白虎隊の会 二条城サロン（映像喫茶）で昼食と懇親。午後から、いよいよ飯沼さんの講演の為、全員で会場（ひと・まち交流館）に移動。以下、飯沼さんが当会HPの掲示板に紹介されていますので省略します。

その後、二次会は、祇園にある司太夫（こつ

京都支部長 中村 正

秋の白虎隊墓前祭参加

飯沼一元

秋の飯盛山白虎隊墓前祭は九月二十四日に開催され、恒例の白虎隊剣舞が奉納される。

十九名の高校生が舞い、一名が「少年団結す・・」を吟じる。そのルーツは、明治十五年寄合白虎隊士中条広記と旧家老諏訪伊助、

蘇生者飯沼貞雄の妹の夫である飯河小膳らが

「会津復興は教育にあり」として日新館を再興した時に遡る。文学部教授に迎えた佐原盛純

に白虎隊十七回法要のため作詩を依頼し、再興した日新館の生徒は、住吉神社の境内を借りて剣舞の練習に励んだ。当時の住吉神社の宮司は自刃した白虎隊士池上新太郎の父與兵衛である。



西会津上野尻の諏訪神社

に盛り上がった。福島市から駆けつけた、小日向さんは、特製ケーキで発足祝いに花を添えてくれました。

大雨の中、佐藤一男さんと石田明夫さん

三人で、西会津の諏訪神社を訪ねた。ここに

は日向内記の娘ミエが嫁いだ宮司平野家の墓

がある。内記が白虎隊の指揮を執れなかつた

理由およびその後の行動は本会の研究課題である。

また、この機会に郡長正の墓を訪ねた。彼が九州の地で自刃した理由は何か？長正是貞吉の義兄である。これも本会の研究課題にしたいと考えている。

この日の前後は会津まつりで「提灯行列」、「会津磐梯山踊り」、「会津藩公行列」などが行われる。今年は二十三日が豪雨で一部の行事は中止となつた。この機会を利用しては三日の夜、会津支部の初会合が行われ、大い

長崎講演報告

工藤新一

二〇一〇年十月十六日、長崎において、「龍馬が望まなかつた戊辰戦争」—白虎隊と長崎幕末英雄伝—という、長崎歴史文化博物館と長崎龍馬会の主催のイベントが開催されました。田上長崎市長もお忙しい中お越しいただき、挨拶に続いて、飯沼さんの講演を熱心に聞いておられました。第一部は「白虎隊が残したもの『義』」の講演を飯沼さんに、中村京都支部長に、白虎隊の会ができるまでのいきさつをお話いただきました。長崎で白虎隊の講演を聞ける機会などめったにありませんし、歴史文化博物館の「実録・龍馬展」のイベントのひとつとして開催されたおかげで会場は満員の盛況でした。もともと、幕末から長崎と会津の関係は深いものがあるのですが、まだ一般的には知られておりません。このあと、6月の「ながさき龍馬フェスター二〇一〇」の「龍馬の歌音楽祭」で準グランプリに輝いた、ツインズの歌もあり、第二部の「幕末長崎英雄伝」では長崎ゆかりの幕末の志士たちを各藩別に6名のパネリストが熱い思いで語り合いました。会津藩を担当した私は、第一部で飯沼さんが、長崎と会津の関係について若干触れておいていただいたので、会津藩の陰の恩人・足立仁十郎や龍馬が会いに行つた神保修理などを熱く語りました。飯沼さんのお話やシン

ボジウムで、長崎と会津の関係を、今まで知らなかつた長崎の人たちに知つてもらえたのではないかと思つています。主催であつた長崎龍馬会の次号の会報に、このときの報告が掲載されます。龍馬ファンの多くは暗殺された時点で歴史が止まっています。長崎龍馬会はじめ多くの長崎の人たちに、その後の歴史について、改めて考えてもらえたイベントではなかつたかと思つております。「白虎隊士が死して残したもののが本当の意味、残つた貞吉の苦悩と生き方に考えさせられた」という感想も寄せられました。長崎新聞に飯沼さんの記事が掲載されました。写真は会場の様子と登壇者と全国から集まつた皆さんです。この日に長崎支部が発足しました。翌日は会津ゆかりの史跡めぐりでした。



長崎新聞(2010年10月22日)



全国から集まった皆さん



会場の様子



長府万骨塔慰靈祭

下関支部長 吉井 克也

長府は、毛利藩の支藩である長府毛利五万石の城下町です。

去る一〇月二一〇日（支部発会式の翌日）、長府博物館構内にある万骨塔の慰靈祭に飯沼一元事務局長と中村正京都支部長が招聘され、白虎隊の会を代表して参列されました。

始めに、長府博物館友の会金田会長のご挨拶がありました。「この万骨塔は、昭和八年に桂 弥一翁が吉田松陰先生の意思の具現として、長門尊攘堂（現長府博物館）とともに建てられたもので、長府文化のシンボルとして大切にされている」。「昭和二十五年に有志により、「長府博物館友の会」が設立され、この時から慰靈祭は先人の慰靈と合わせて平和を祈る祭となり、今年で六〇周年を迎える」等、万骨塔の成り立ちや意義についてのお話と、

六〇周年の記念すべき年に、「長府藩士三吉慎蔵と白虎隊蘇生隊士飯沼貞吉のご子孫をお迎えできたことの喜びと感謝の念」をしみじみとお話になりました。

続いて、ご来賓として、三吉治敬さんは『天河

ことだ』とそれぞれ述べられ、参列者に深い感銘を与えられました。

式典終了後は、万骨塔を背景にお二人が握手をされ、その姿に私たちは会津・長州の間にあるわだかまりも、努力すれば必ず解消できるとの感慨を新たにしました。

創立六十周年記念 万骨塔献歌より

岡田 隆太郎

志士偲ぶ万骨塔に歳記す白虎隊士の碑哀し



写真・山口新聞提供・万骨塔背景



その後、博物館長室で金田会長さんと飯沼さんとの間で「靈石にある文字の間違い」「白虎隊の説明板の設置」等について、率直に意見交換がなされました。結論にはいたりませんでしたが、今年度の慰靈祭に飯沼さんがご参列くださったことは、今後会津・長州の間を紡ぐに当たって、はかり知れない成果があつたと思っています。その折りに金田会長さんが提案された「山川健次郎の靈石を万骨塔に安置すること」について、友の会役員の合意を得たとの報も二月にいただきました。

この万骨塔が、今後の会津・長州の友好に向けて、重要な拠点となることを心から期待しています。

喜多方市塩川町の講演会から

顧問 佐藤一男

時は第六二回勤労感謝の日に開催された。会津領は四七都道府県で愛知県より広く二六位に相当し、明治一八年まで会津領だった新潟県東蒲原郡を含むと山口県より広く二三位にある。これを東西に流れる阿賀川は塩川湊と津川湊を結ぶ舟運文化と米沢街道が交差する塩川宿は、商の町とした栄え、明治四二年にわが国最小の町制が施行された。

塩川宿に代官所が置かれ、西郷家や諸藩士と交流が深く奉公する中間も多く、会津随一の医師の里で寺子屋も盛んだた。豊島家は西郷家の御庭番で、下遠田村の星初太郎が西郷家に仕え、棒術にすぐれて西郷太郎といわれた。世良修蔵を斬つた疑いが流れ、藩への配慮から西郷家は急死したことにして実家に戻した。

八月二三日白虎隊士自刃で蘇生した飯沼貞吉が塩川ご本陣で治療を受けたが、この日に桑名藩主定敬（容保弟）らが米澤に逃れ、二七日は西郷頼母が倅と藩命になつて米澤から仙台に赴くなど安全な里だつた。

九月四日米沢藩が西軍に降伏したが、土佐藩板垣退助は米沢藩斎藤主計に会津にも義があるとして終戦の仲立ちをすすめ、九月十七日に米澤下街道の森台村で会合し、十九日に会津の降伏書が米沢藩をへて土佐藩に提出し、二二日に追手門に涙で縫つた重い白旗が掲げられた。

塩川宿に謹慎した。飯沼貞吉の祖母、母、妹、弟らが二年八ヶ月間塩川代官所大広間に謹慎し地域との交流は深かつた。貞吉の兄源八は代官所に近い藩米蔵に謹慎、翌年一月六日に越後高田養寿院に護送され原田主計らと寝食を共にし、のちに斗南藩へ海路を急いだ。

高田藩への護送が終わると旧代官所が新日新館として井深梶之助、池上三郎、四郎らが学び、師に星研堂、今泉岫雲や「なよたけの碑」に妻と長男を祀る浅井信次郎が任についた。

塩川宿に謹慎した。飯沼貞吉の祖母、母、妹、弟らが二年八ヶ月間塩川代官所大広間に謹慎し地域との交流は深かつた。貞吉の兄源八は代官所に近い藩米蔵に謹慎、翌年一月六日に越後高田養寿院に護送され原田主計らと寝食を共にし、のちに斗南藩へ海路を急いだ。

高田藩への護送が終わると旧代官所が新日新館として井深梶之助、池上三郎、四郎らが学び、師に星研堂、今泉岫雲や「なよたけの碑」に妻と長男を祀る浅井信次郎が任についた。

飯沼貞吉が治療した本陣跡、代官所跡、遺蹟は當む塩川宿に謹慎者三千人がなだれ込み、街道両側に六〇余のご先祖からの手紙ならぬ史蹟や語り草などで当時を伝えてくれる。

飯沼貞吉が治療した本陣跡、代官所跡、遺蹟は當む塩川宿に謹慎者三千人がなだれ込み、街道両側に六〇余のご先祖からの手紙ならぬ史蹟や語り草などで当時を伝えてくれる。

飯沼貞吉が治療した本陣跡、代官所跡、遺蹟は當む塩川宿に謹慎者三千人がなだれ込み、街道両側に六〇余のご先祖からの手紙ならぬ史蹟や語り草などで当時を伝えてくれる。

午前の部 「舟運の町塩川宿散策」

塩川町ふれあい会館で約八〇名が参加して飯沼一元氏の講演が行われた。主催は喜多方市塩川公民館・白虎隊の会。主管喜多方市文化協会塩川支部（佐藤一男支部長）。会津藩は朱子学で知られる

が城下町以外は藤樹学であり、自由民権運動が早く行われこれを巡つて弾圧された地方である。だが、当地は西郷家、飯沼家、神戸家とゆかり深く、石田昭夫理事が挨拶し、飯沼一元氏の熱弁が参加者に新たな認識を与えた。

塩川は会津藩の商宿といわれ文化人の多い宿場

であり、謹慎者の生活を支援した商人像の新たな人物が浮かんだ。こうして会員増長の第一歩が降雪を前に歩みだした。



福島民報
(2010年11月25日)

午後の部 講演 「飯沼貞吉と塩川町」

塩川町ふれあい会館で約八〇名が参加して飯沼一元氏の講演が行われた。主催は喜多方市塩川公民館・白虎隊の会。主管喜多方市文化協会塩川支部（佐藤一男支部長）。会津藩は朱子学で知られる

が城下町以外は藤樹学であり、自由民権運動が早く行われこれを巡つて弾圧された地方である。だが、当地は西郷家、飯沼家、神戸家とゆかり深く、石田昭夫理事が挨拶し、飯沼一元氏の熱弁が参加者に新たな認識を与えた。

塩川は会津藩の商宿といわれ文化人の多い宿場であり、謹慎者の生活を支援した商人像の新たな人物が浮かんだ。こうして会員増長の第一歩が降雪を前に歩みだした。

磐越西線塩川駅に約五〇名が参加して白虎隊の会から飯沼、石田、安司各氏が参加され、戊辰戦争ゆかりの地を散策した。街道両側の総面積一・三

白虎隊自刃の地説明板

—事務局長 飯沼一元



飯盛山にある白虎隊自刃の跡地

本会の最初の事業は、飯盛山にある白虎隊自刃の地（写真）に説明版を設置することとした。この地は会津観光のメッカでもあり、多くの人が訪れる。だが、この地には説明版がないので、白虎隊士がなぜ自刃したかを知るすべがない。自刃の理由は、「城が落ちたと思い、殿の後を追った」という「落城誤認説」が定説化している。

会津藩はその後一ヶ月も籠城戦を戦い抜いたの

であるから、この誤認が悲劇に繋がったとされる。そして、誤認の遠因として「隊長不在のため、子供達が判断を誤った」という「白虎隊士の子供扱い」が続く。

二〇〇八年六月に飯沼家から貞雄自筆の「白虎隊顛末記」が発見され、自刃の状況が明記されていることが分かつた。真相を語るのは自刃の場に居合わせ、後蘇生した本人だけである。

この文書では、「帰城」か「玉碎」かを巡つて激しく論争した挙句、隊長代行の篠田儀三郎が、「武士の本分を明らかにする」として、自刃を主張。一同これに同意したとなつてている。

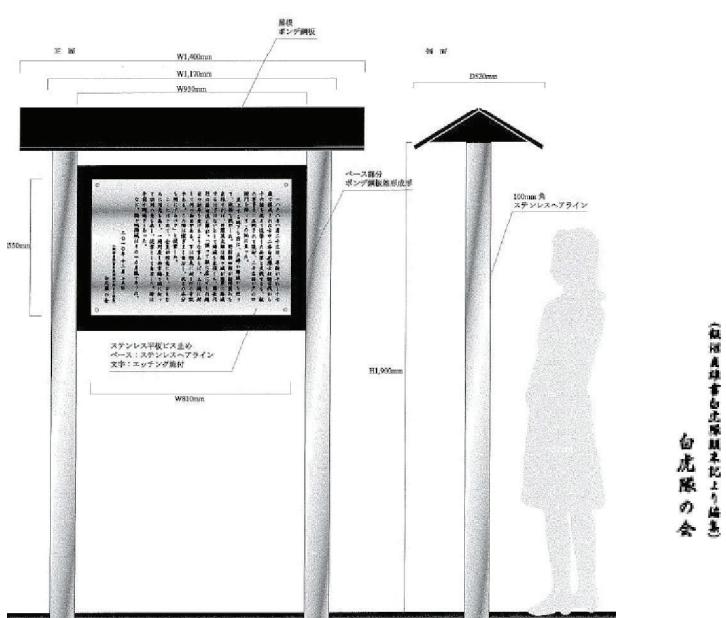
彼らは落城誤認などしていないし、会津の教えを守りぬいた立派な大人の志士だった。この地で一〇〇年間にも亘つて子供扱いされ続けた彼らの名誉回復のためにも、この説明版の設置は、私の使命と考えている。墓地管理委員会、弔靈義会他の関係筋への根回し、構造物の設計などは会津支部の手で着実に進められている。

大震災のため、設置日程は延期としたが、復興の目処が付いた時期を見て、除幕式を敢行したい。その節には、できるだけ多くの会員の列席をお願いしたい。

一八六八年八月二十三日、年齢が十六十七歳で捕虜された士中二番白虎隊士は猪苗代から十六橋を越えて進撃した西軍と交戦するも、敵の軍事力に圧倒され退却、二十名弱が戸の口洞門を潜つてこの地に至った。

表上する城下を前に、五碑が帰城かを巡つて、激論を興わした。野村鶴四郎が敵陣突入を主張すれば、井深茂太郎は鶴ヶ城が榜軍に落城するはずはないとして帰城を主張した。隊長代行の篠田儀三郎が、「撲つて敵に虜にせられ絶命の耻辱を受けるような事あらば、上は敵に對して何の面目がある、下は祖先に對し何の申訴やある。この場は潔きよく自刃し、武士の本分を明にするべき」と提案した。

ここにはすめて、全員が同意に至り、おもむろに用意を為し、一同列席して方鶴ヶ城に向つて決別の意を表し、從容として自刃した。時は午前十時過ぎであった。なお、鶴ヶ城開城はその一ヵ月後であつた。



京都支部報告

支部長 中村 正

二〇〇九年一二月二十六日、祇園・司太夫の店で発足した白虎隊の会、正式には全国に向け、二〇一〇年四月一日のスタート。発祥の地とも言える京都支部として早速、活動を始め序々に入会者も増えて、二〇一〇年六月十二日（土）15：00～17：00、二条城サロン「映像喫茶 京都」にて【白虎隊の会】京都支部の初会合が開催されました。

参加者は、京都支部会員以外に大阪、下関からも特別参加があり、総勢十五名。事務局長の飯沼一元さんをゲストとしてお呼びし、私の司会で始まりました。最初に各自の自己紹介。その後、和気藹々とした雰囲気の中で飯沼さんの講演（二〇〇七年二月、初めての京都での講演）のビデオ（DVD）を観たり、【白虎隊の会】誕生秘話（!?）や、今後の活動についての説明を聞きながら、雑談も交えつつ、楽しい時間を過ごしました。（現在の京都支部会員数は、十九名です。）

六月十三日には、京都会津会主宰の第一〇五回黒谷法要が行われ、飯沼一元事務局長と一緒に京都支部から、司太夫、正井良治さんが参加しました。会津藩は一八六二年十二月に京都守護職として、黒谷金戒光明寺に約一千名の藩士を送り、六年間に亘って御所の警護に当たったが、無法地帯化し



八月の行事（夏の納涼会と飯沼さんの二回目の京都講演）は、別項に掲載（P7 参照）

た京都を舞台に二百七十二名が没し、更に鳥羽伏見の戦い（一八六八年一月）では百十五名が戦死した。黒谷の会津藩墓地には、これらの藩士の靈が祀られている。



二〇一一年一月大阪で、アイキス会賀詞交歓会の新春講演のゲストとして、飯沼さんに「白虎隊が残したもの（義）」のお話ををしていただきました。二月には、戸田さんの案内で伏見区役所で開催された「歴史講座」に参加。龍馬と戊辰の役（京都国立博物館 宮川禎一氏）、鳥羽伏見の戦いと伏見（京都歴史資料館 伊東宗祐氏）で二日間とも大変、有意義な講座でした。京都支部は、皆様の参加をお待ちしています。

会津支部報告

支部長 真部正美

会津支部が設立されたきっかけは、平成二十二年四月二十四日に、飯沼さんとの出会いでした。

お会いした日は、春と秋に年に二回開催されま

す春季白虎隊慰靈祭の当日でした。佐藤一男先生から飯沼さんをご紹介頂きました。飯沼貞吉様のお孫さんであるということでも感動したこと、さら

に貞吉さんがお話しをされた内容を拝聴し、衝撃と感動が一度に心に湧き上がったことを今でも覚えています。その際に『白虎隊の会』のお話しも伺い、白虎隊が自刃した飯盛山がある『会津』で会津支部を結成し、支部長として会津をまとめ頂きたいとの要請を受け、いろいろな方々にお話しをさせて頂き、総勢で三十名の皆様に会員となつて頂きました。

会津支部最大のイベントとなつたのは、本部・

東京支部と会津支部との顔合わせ会でした。九月二十二日に会津若松市内「炙りや牛ぞう」で参加者両支部合わせて二十名で開催致しました。飯沼



さんからは、会津支部への期待としてお話しを頂戴し、会津支部の基本方針を会津支部長の立場から私が述べさせて頂き、東京支部の基本方針として、渡部麗東京支部長よりお話しを頂きました。

史研究の立場で講話を頂きました。その後の懇親

会では、お酒を酌み交わしながら参加者が、各支部のお話しや白虎隊について熱心に語り合い、盛会のうちに終了致しました。

二十四日は、『我ら！白虎隊ウォーク』にもゲストとしてご参加頂きました。この行事は、飯盛山商店会が主催で、戸の口原の戦いで敗走してきた

白虎隊士が飯盛山へ来るためにくぐった弁天洞門を百四十余年の時を越え、現代に生きる我々が白虎隊になり、洞門を実際に通るイベントです。飯

沼さんには、白虎隊が出陣した、滝沢本陣で行つた出陣式において、「白虎隊について」と題し、飯沼貞吉さんが残した白虎隊の話を参加者百名の前で講話頂きました。洞門くぐり体験には、渡部麗東京支部長も飛び入り参加され、白虎隊の気分を体験されました。

平成二十三年には、飯盛山に白虎隊の会の説明板が完成設置予定であり、ますます、会津支部と致しましては、責任をもつた活動をして参りたいと思います。



東京支部報告

支部長 渡部 麗

一〇一〇年七月二十八日、私が經營する東京御茶ノ水の「レキシブルバー」にて白虎隊ナイトを開催しました。飯沼一元さんと木下健さんにご参加頂き、非常に実のある夜となりました。このバーは毎週水曜日限定で開催され、日本全国から歴史好き及び興味層が集まり、歴史をテーマに活発なコミュニケーションが行われています。一番人気のある時代は戦国ですが、幕末も三国志人気と並び、好きなひとたちが増えました。昨年の大河ドラマ「龍馬伝」の影響が大きいと感じます。そして我が会津についても興味を持ち始め、いろいろ知りたがっている感触も得ています。やはり幕末会津を語る上で、白虎隊の存在は大きいです。飯沼さんともよく話すのですが、一般的なお涙頂戴の物語ではなく、会津武士道に則った彼らの美しさの部分をもっとフォーカスしていきたいと思っています。今後、東京支部としましては、その地の利を活かし、メディアなどとうまくコラボレートして、白虎隊を発信する機会を探つています。そしてこれはまだまだ夢物語なのですが、東京会員の萩原氏と共に、飯沼貞吉の人生と会津武士道をテーマにした映画創りを模索しています。地道な活動と共に、一気に多くのひとに届けられる方法を東京支部では狙つていきたいと思います。

東京では会津関係の各種イベントが開催されるとともに、史跡も沢山あります。

二月十二日に石田さんの案内で松平家の菩提寺である東京三田の実相寺と会津江戸屋敷跡を散策しました。実相寺には保科正之の後室「お万の方」



幕末史を見直す会で山川健次郎の研究討論後の懇親会。
右から木下、飯沼 佐瀬、渡部。

まずは一番大事な製作資金を集める算段として映画ファンドを設立し、一般的なビジネスをしながら、その利益の一部を製作資金に落とす仕組みづくりを考えています。何年かかるか分からぬですが、夢を追つて精進し、具体的な目標として具現化できるよう行動してみます。是非お知恵とご助力賜りますよう、お願い申し上げます。



をはじめ、歴代の後室の墓があります。ご住職の話では、会津から訪れる人は殆どいないとのことでした。また、現在の慶應大学三田校舎付近は会津藩江戸屋敷があつたところです。高層マンションが立ち並び、史跡はありませんが、隣接していた薩摩藩江戸屋敷とは別格の地であつたことが偲ばれます。東京支部は会員も多岐に亘つていてため、今後のネットワーク化が必要です。



会津藩江戸屋敷付近の地図

下関支部報告

支部長 吉井克也

私たちの下関支部は、平成二二年一〇月一九日に発足しました。発会式には、九州各地での講演会や研修会に招聘され、大変お疲れにも係わらず、飯沼一元事務局長、中村正京都支部長のご出席をいただき、また、当地からは「志士の杜」副会長や理事、市役所から、総合政策部の参事・主幹の方々のご出席をいただき、大変盛り上がりのある会となりました。

現在会員は、正会員一五名、準会員は四名の総勢一九名ですが、他市からの問い合わせも多くあり、受け入れをどうするか検討中です。全員が、「高見フサ口伝（権崎屋敷物語）」によって浮かんでくる白虎隊蘇生隊士飯沼貞吉を敬愛し、貞吉の回生を支えた長州藩士権崎頼三を誇りに思っている歴史好きの面々です。



写真／山口新聞提供



写真／神戸岩蔵関係

（2）尊皇・佐幕・会津・長州などのしがらみにとらわれず、幕末・明治維新期を志をもつて生き抜いた先人たちの生き方に学ぶ。

【事業】

- （一）白虎隊本部と連携して、飯沼貞吉ゆかりの地美祢市と下関市に記念碑を建立する。
- （二）全国に在住する白虎隊の会会員との人的交流を促進する。
- （三）学習会、研修旅行などを通して支部会員の研鑽と親睦を深める。
- （四）「権崎屋敷物語」の紙芝居などを製作しこの伝

下関は日本海と瀬戸内海に囲まれ、とても魚の美味しいところです。ぜひ、おいだませ！

新年早々の一月二九日には、旧会津藩士神戸岩蔵の墓地整備と慰霊祭を行いました。会員の他、下関観光コンベンション協会ガイドや地域の方々も多数参加され、総勢二五名で、お墓までの荒れた道の復旧作業（孟宗竹の伐採等）や墓周辺の整備と赤間神宮神職による慰霊祭を行い、その後長府東公民館で神戸岩蔵に関する研修会を行い、清々しい一日になりました。

承の普及に努める。

長崎支部報告

支部長 工藤新一

二〇一〇年十月十六日、飯沼さんをお迎えした講演会のあと発足した長崎支部ですが、現在会員を募集しつつ、飯沼さんより依頼の白虎隊士石田和助の実兄であり、第七代長崎県令（名称変更により初代県知事）の日下義雄の功績を調査中です。

現在残っている史跡はありませんが、有名な眼鏡橋の下を流れる中島川の上流に桜の木を千本植えた中川カルルスと呼ばれる桜の名所を作りました。現在は、料亭「橋本」付近に、そのあとが偲ばれる程度です。桜を植えた功績の説明版を設置が当面の目標です。日下の最大の長崎での功績は、日本で三番目の水源地を神保修理の実弟で、初代長崎市長の北原雅長とともに建設し、コレラに悩まされた長崎の上水道の整備をしたことがあります。現在、長崎を歩き回って史跡を巡る「長崎学さるく」で「長崎と会津をつなぐ人々」として月一回程度、私が講師としてガイドし、観光客や長崎の人々に、会津と長崎の関係を知つてもらう努力をしております。その参加者の中から「白虎隊の会」への入会希望者も増えております。現在の会員には、会津出身で東北大卒の長崎歴史文化博物館の大堀哲館長をはじめ、長崎検番の最年少の芸妓・美代菊さんや、十月の講演会で入会された会員さんも居られます。私の「学さるく」に参加したり、歴史

文化博物館の館長トークで、会津のことを学ぶような活動をやっております。三月は「京都守護職」についての館長講演を支部の活動の一環と位置づけました。三月に新しく調査依頼が飯沼さんよりありました。歴史文化博物館の学芸員の方の協力のもと、三菱の史料館にも協力をお願いしまして「岩崎弥太郎と会津の船乗りについて」調査を開始しています。また、十月のシンポジウムに出ていた大「咸臨丸子孫の会」の吉田さんにもご協力をお願いしました。まだまだ会員数も少なく厳しい調査活動ではありますが、会員も増強しながらがんばって生きたいと思います。サロンも募集中ですが、知り合いの喫茶店（西郷四郎がいた東洋日の出新聞社の社屋跡）の地下で十数年前の「白虎隊」を鑑賞する会（一般参加あり）も計画しています。はるか九州の地でも会津の魂（こころ）を、白虎隊を想う人々がいることをお伝えして支部報告に変えさせていただきます。

写真は、十月の懇親会です。市長代理で副市長にご出席いただきました。もう一枚は日下が植えた中川カルルスの桜です。



H22.10.16 長崎支部懇親会



日下義雄が植えた中川カルルスの桜

寄稿 — 白虎隊に恋して～会津への思い —

京都 嶋原 司太夫

あれはいつ頃のこととしたやう。氣い付くと白虎隊を知つていて、子供の頃から会津若松へ行くのが夢どした。遡つても思い出せへんのは小学校の低学年やつたんと違いまつしやろかねえ。憧れ…とかと違うて子供心に『可哀相』というより、なにか別の心を動かされるもんを感じてたんやと思います。

そこから新選組を知り、中学の頃には新選組に憧れ土方歳三や沖田総司が好きどした。周りは結構龍馬や勤王派どしたんやけど、1人息巻いてました（笑）。

※今は斎藤一。やはり会津に眠つてはります。

けど今ほどの事も無うて单なる一ファン。一五〇二三歳まで、勤王派の巢（?!）、祇園で過ごし、辞めた直後から、新選組が通つた鳴原へ！ 水を得た魚の様に思いも膨らみ、益々会津への思いも募る。それはまるで恋する乙女（?!）の様な感情どした。：あくまでも気分どすえ。

結婚した人は幸か不幸か龍馬ファン。家で幕末の話をすると、家庭内戊辰戦争に発展！

いらぬ夫婦喧嘩は止めようと話すことは避けてたんだしたけど、娘が三歳の頃初めて会津若松に連れて行つてくれたんは主人どす。新婚旅行が長州（萩）どしたし、気がづつなかつた（気が引けること）んどしたんやろか（笑）。初めての会津。何より一番に白虎隊のお墓にお参りし泣き、鶴ヶ城に行つては泣き恋い焦がれた思いが叶つた瞬間どした。

会津にいる間に主人も『会津魂』にふれ、彼らの『義』を感じ、会津に対してだけは変わつていつてましたね。

現在、主人も亡くなり家庭内戊辰戦争はおへんけど、一抹の寂しさと、娘も成人し気楽になつて、心の恋人？白虎隊の眠る会津若松に年に三～四度は足を運べるようになり、益々はまつていく私。京都においては、京都会津会様から「蒲生氏郷公」の法要や「会津藩士」の法要にご招待いただけるようになり、京都に代々生まれ育ちながら会津との深い絆を感じます。



H23.2.3 節分「おばけ」 会津「娘子隊」に扮する。

くなつて、貫ける政○家もいんようになり、「日本人よ『義』を取り戻せ！」て叫びとおす。そして、今ここに【白虎隊の会】を立ち上げたんは大きな意味を持つと思います。この活動をすることによつて、日本人の心に本当の日本人の姿が取り戻せますように…。

白虎隊、直向きな思いと「義」

WEB担当 戸田美佐子（羽角）



会津と私

渉外担当 正井良治

ました。

初めて白虎隊のことを知ったのは、十代半ばの頃。新選組ファンの友人がいて、一緒に京都の史跡めぐりをしました。新選組も好きでしたが、さらに興味を抱いたのが当時同年代だった白虎隊。周囲では「可哀想な少年たち」との認識でしたが、私には自刃を選んだ彼らの潔さに『可哀想』では片付け

その後、しばしブランクがありましたが、白虎隊＆会津への愛が再燃したきっかけは、一〇〇七年に放映された二十年ぶりの白虎隊ドラマ（テレビ朝

白虎隊の会発足の昨年は私には忙しい年でした。遣米使節150周年の節目の年にあたり、横須賀、サンフランシスコ、塩飽など各地で記念行事が目押しにあり殆どすべてに参加したからです。

雅之進は帰国後、築地の軍艦操練所で教授を務め、慶応三年には当時最新鋭の開陽丸に乗組を命じられます。翌年の鳥羽伏見の戦いで幕府側が敗れ、徳川慶喜・松平容保たちが開陽丸で江戸に帰る時には機関長を勤めていました。

られない何かを感じられたのでした。その三年後くらいに日本テレビ系で放映されたドラマ『白虎隊』を観て、会津藩の人々の生き方に涙し、ますます心惹かれるようになりました。そして、新潟県長岡市に親戚がいた縁もあり、戊辰戦争時には友軍として戦つた会津藩が身近に感じられ、そのままに愛が深まつたのです。

強し直し、世間の認識が変わることを期待して、白虎隊＆会津藩（十長岡藩）HP『白虎彷徨』を始めました。ネットのお蔭で、【白虎隊の会】発起人の皆様と出会うことができ、会の立ち上げに繋がりました。人と人との係わりが年々失われ、忘れられてゆく日本人の「心」。【白虎隊の会】の活動を通して、白虎隊が示してくれた「義」を再び日本人の心に取り戻し、次世代に伝えてゆくことができるのを切に願います。

150年前、先祖小杉雅之進は長崎海軍伝習所で当時の先端技術であった蒸気機関の勉強を終え、18歳で蒸気方見習いとして咸臨丸に乗り組みました。技量を磨くためまた異なる文明社会を見聞するため、嵐の北太平洋を渡ります。その勇気と氣概に感じ入り、同じ航海体験をすべく、咸臨丸の航跡をたどる企画に応募し、帆船海王丸でサンフランシスコまで片道30日間の帆走をしてみました。

戸に帰る時には機関長を勤めていました。

幕府危急のこの時の同船を通じて築かれた信頼関係もあつて、後に雅之進の姪が容保の次男健雄に嫁ぐことになります。私の会津への関心はこのことに始まります。

戊辰戦争の初戦で敗退したその後、旧幕府側が時勢をコントロールすることは叶わぬことでしたが、容保は当時何を考えどのように行動したかったのか

それからというもの、会津藩の立場を理解するためには幕末といつ時代全般を知らなければと思い、佐幕・倒幕問わず専門書を読み、歴史講座等に参加して、多くの知識を得ることができ

排水量が咸臨丸の8倍もある海王丸でも、その船体は時代では大きく揺れ、斜めからの風を受けると最大三五度も傾きます。小さな咸臨丸では大変な航海だったことが実体験を通じて改めて

か？また会津藩主になつた時期から会津開城までの容保の思考心情とその変化について、また藩士藩民への思いについて、史実に基づいて自分なりに考えてみたいと思つています。

認識できました。

雅之進は帰国後、築地の軍艦操練所で教授を務め、慶応三年には当時最新鋭の開陽丸に乗組を命じられます。翌

A circular portrait of a man with long, thin, grey hair and a full, dark beard. He is wearing round-rimmed glasses and a light-colored, striped shirt. The background is a dense green foliage.

本部便り

1.会員

2011年3月末現在、会員総数は130名、うち特別会員15、一般111、賛助4名である。支部別では会津55、東京23、京都21、下関15、長崎7.その他9名である。その他の中には仙台が多いので、仙台支部の立上げが期待される。

2.活動

主な活動実績は表に示すとおりである。内容については、記事を参照して下さい。

【白虎隊の会】の主な活動

年月日	活動内容
2009年12月26日	京都で「白虎隊の会」の立ち上げを決定。
2010年1月17日	「白虎隊の会」掲示板を開設
2010年1月21日	福島民報に「白虎隊の会」発足の記事掲載される
2010年1月23日	「白虎隊の会」ホームページを開設
2010年3月22日	【白虎隊の会】発起人会 東京都板橋区 堀田文庫
2010年4月1日	【白虎隊の会】発足
2010年4月24日	飯盛山墓前祭参加、会津史談会総会出席
2010年6月13日	京都会津会第105回黒谷法要参加
2010年7月4日	会津エンジン05参加
2010年7月26日	筑前琵琶「花の白虎隊」会津若松住吉神社奉納
2010年8月22日	京都史跡ガイドボランティア協会講演会
2010年9月22日	会津支部会合、会津戊辰戦争慰靈の集い、
2010年10月16日	長崎支部講演
2010年10月19日	下関支部会合
2010年10月20日	下関長府功山寺萬骨塔 創立60周年慰靈祭へ参加
2010年11月23日	塩川町講演会
2011年4月2日	年次総会(インターネットで)
2011年4月16日	会報創刊号発行
2011年9月18日	京都府庁旧本館連続講座「幕末京都新発見」講演
2011年9月23日	飯盛山白虎隊自刃の地説明版除幕式
2011年10月20日	長府博物館功山寺万骨塔山川健次郎靈石安置除幕式

3.決算報告

白虎隊の会		貸借対照表	単位(円)	損益計算書		単位(円)
資産の部		負債の部		収入の部	支出の部	
現金及び預金	857,547	短期借入金	1,647	会費等	713,500	説明版(未払い金)
		未払金	497,600	受取利息	60	会誌(未払い金)
		負債の部合計	502,247			広告費(京都会津会誌)
		純資産の部				通信費
		利益剰余金	358,300			消耗品費(名刺・コピー等)
		純資産の部合計	358,300			寄付金(殉節之碑)
資産の部合計		負債及び純資産合計	857,547			次期繰り越し利益
会計監査	平成23年3月31日現在		合計	713,560		60,982
						713,560

4.会計監査

平成22年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

平成23年 4月2日 会計監査役 緑川 正和 印

5.2011年度の計画

新規会員獲得目標100名、総事業費は今年度並みの70万円を予定。

9月23日に飯盛山白虎隊自刃の地説明版除幕式を計画中。

10月20日に下関市功山寺万骨塔への会津白虎隊士山川健次郎靈石の寄進を計画中。

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年(慶應4年)3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いましたが敗れました。

数え年16~17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、20名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで "会津の教え" を健気にも最後まで守り通しました。

"会津の教え" とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから142年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎える、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないか? どうでしょうか? 私たちは、白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

めまぐるしく変化する世界情勢。その中で、日本が目指すべき将来像がなかなか描けない。このままで良いとは、誰も思っていないだろう。だが、どうすれば良いかが分からず。我が國には、混沌の中から逞しく立ち上がってきた輝かしい歴史がある。その歴史の中で、誇り高く生きた多くの先人がいる。彼らの生き方を謙虚に学ぶことから、閉塞打開の道筋が見えてくるかもしれない。

140余年前の戊辰戦争で散った白虎隊士も学ぶに値するものと信じ、白虎隊の会を立ち上げて1年。多くの人の出会いがあり、実際に多くのことを学ぶことができた。この輪を一人でも多くの人に広げたい。『義』に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。そんな思いから発刊した創刊号。継続は力なり。続けることが大事であると、自分を戒めながら、2年目に向かいます。

飯沼記

（　）　♪白虎隊の会について♪
★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千円です。
5年分一括納入へのご協力ををお願いしています。（　）

【白虎隊の会】事務局

〒156 0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654
発行責任者 事務局長 飯沼一元